

今週の

いきもの広場

① トホシテントウのさなぎ



幼虫の姿で樹皮などのすきまに隠れ、冬を越します。広場の幼虫は次々とまゆになっています。成虫が見られるまでもう少しです。

② ウスバカゲロウの幼虫



軒下など雨の当たらない地面に幼虫が作るすり鉢状の巣は、アリジゴクの巣として知られます。(右の写真は土の下にいる幼虫です)

③ カブトムシの幼虫



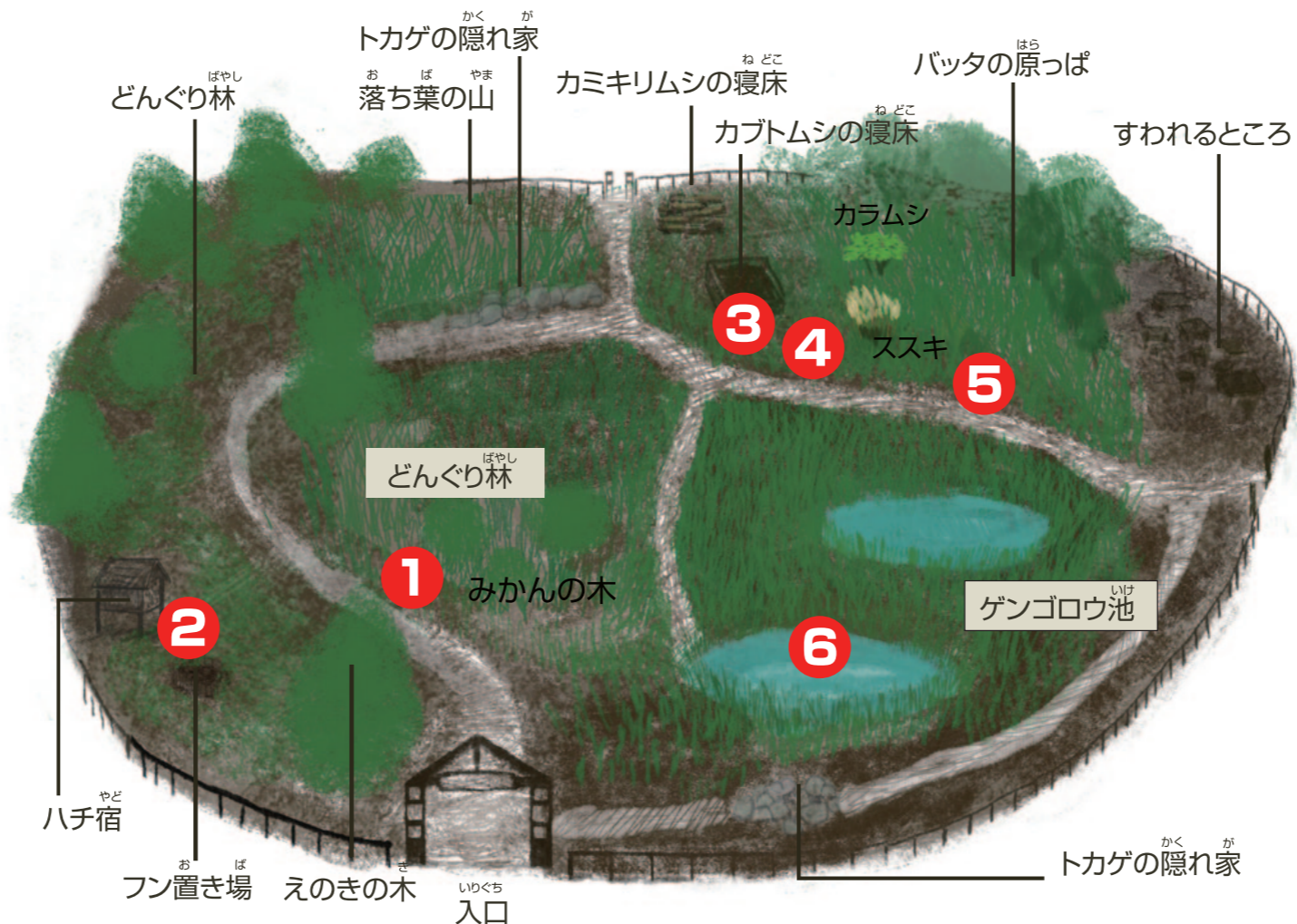
昨年の秋に卵からふ化した幼虫は、土の下に深くもぐり、冬を越します。初夏にはさなぎになり、夏には成虫が見られるようになります。

④ アカシマサシガメ



広場では石や朽ち木の下でよく見つかります。肉食性で、くちの針をヤステなどの獲物の体に刺し、ストローのように吸い取ります。触る時は、十分注意して触りましょう。

いきもの広場は、動物園の中に作った「近所の自然」です。広場のなかには様々な環境や生き物と出会うための小さな仕掛けがたくさんあります。あたたかい日が多くなり、春の花が咲く広場内では、冬を越したキタキチョウやモンシロチョウが飛び回っています。



⑥ アズマヒキガエルのオタマジャクシ



2月に池の中に産み落とされた卵が、3月下旬頃、一斉に孵りました。5月には手足が生えそろう、上陸すると思われます。

⑤ ヒガシニホントカゲ



冬の間、落ち葉の下や土の中にもぐりじっとしていたトカゲも、近頃の陽気で活発に動き出しました。(写真の観察ボードの下で発見)

ハチ宿の竹筒を新調しました

ハチ宿は、ドロバチのなかまを広場に呼ぶための仕掛けです。設置されている竹筒の穴が土でふさがれていたら、ドロバチが卵を産みつけた証拠です。産卵期間は5月～9月頃まで。